



田中 正幸さん
Tanaka Masayuki

たなか・まさゆき / 主に首都圏に住む本町出身者などで構成される東京甲佐会の会長として、会員相互や、本町の住民との交流などを行っている。

〔岩下一区〕

遠く離れた東京から ふるさと甲佐の発展を願う

「東京は、人・金・情報があふれ、24時間眠ることなく、常に騒音に包まれています。仕事中にふと、甲佐の原風景を思い出すと、心身共に疲れていてもがんばることができません」と話すのは、東京

甲佐会の会長を務める田中正幸さん。

同会は、「会員相互の交流と親ぼくを図り、ふるさと甲佐町の発展に寄与すること」を目的に活動し、会員数は約300人。平成6年に設立さ

れ、今年で20周年を迎える。「東京甲佐会が20周年を迎えることができたのは、レールを敷いてくれた先輩たちや、役員などの献身的な活動があったること」と、記念すべき節目の年に、長年の活動を振り返る。

同会の活動目的の1つである会員相互の交流と親ぼくについては、「元気に、楽しく」をモットーに「ゴルフコ

ンペ、散策会、暑気払い会、忘年会などの各種行事の開催や、会報誌の発行、ブログの配信などを行っている。

もう1つの目的である「ふるさと甲佐町の発展に寄与する」ために昨春秋に企画したのが、会員と本町の住民との交流と相互理解を図るための「ふるさとツアー」。13人の会員が故郷を訪れ、親交を温めた。「甲佐の皆様との意見交換会は、大変有意義な時間でした」と田中会長は話す。

故郷から離れて暮らす田中会長が特に感じたのが、本町の若者たちのエネルギーだという。「『ふるさとツアー』で若い方たちが積極的に発言していたり、帰省した際にも若者集団による談論風発（だんろんふうはつ）の場面に遭遇したりして、甲佐の未来が発展するエネルギーを感じました」と、遠く離れた東京からこれからの町の担い手の活躍に期待を寄せる。

今後の東京甲佐会の活動について、「若年層や女性陣の活躍と、組織の拡充を図りたい」と青写真を描く。